

令和5年第4回（9月）掛川市議会定例会  
一般質問発言順序

- |    |     |          |
|----|-----|----------|
| 1  | 11番 | 藤澤恭子 議員  |
| 2  | 14番 | 鈴木久裕 議員  |
| 3  | 16番 | 窪野愛子 議員  |
| 4  | 6番  | 山田浩司 議員  |
| 5  | 12番 | 勝川志保子 議員 |
| 6  | 8番  | 石川紀子 議員  |
| 7  | 9番  | 嶺岡慎悟 議員  |
| 8  | 13番 | 寺田幸弘 議員  |
| 9  | 10番 | 富田まゆみ 議員 |
| 10 | 5番  | 大井正 議員   |
| 11 | 4番  | 安田彰 議員   |

令和5年第4回（9月）掛川市議会定例会  
一般質問発言順序（予定）

---

9/11 AM 11番 藤澤恭子 議員

14番 鈴木久裕 議員

---

PM 16番 窪野愛子 議員

6番 山田浩司 議員

12番 勝川志保子 議員

---

9/12 AM 8番 石川紀子 議員

9番 嶺岡慎悟 議員

---

PM 13番 寺田幸弘 議員

10番 富田まゆみ 議員

5番 大井正 議員

---

9/13 AM 4番 安田彰 議員

## 一般質問通告要旨

議席番号	11	氏名	藤澤恭子	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括 )
------	----	----	------	---

### 1 家代の里地内緑地売却に係る損害賠償請求訴訟について (答弁：市長)

家代の里の緑地売却に係る裁判の二審の判決では、一審よりも約900万円増額した賠償額が市に命じられた。この不適切な事務処理及び、裁判に至る経緯は、市民の不信感を抱き、市の信頼を大きく失墜させたものであり、いまだ市民の理解は得られていないと感じることから以下について伺う。

- (1) 裁判結果を受けて、市長の見解を伺う
- (2) 今後の対応及び、市民への説明をどのように考えるか、見解を伺う

### 2 市民に寄り添った災害対応を (答弁：市長)

近年、自然災害は頻発し、今後は局所的な災害も増えてくると予想される。被災された方々のショックやストレスは計り知れず、いち早く元の生活に戻るよう支援すべきである。災害が起きた直後、被災者にもっと効率よく寄り添える対応を考えていく必要があることから以下について伺う。

- (1) 7月4日の突風被害で災害対策本部を立ち上げなかった理由を伺う
- (2) 罹災証明書、被災証明書の発行において、デジタルの活用や各支所で行えるよう工夫するなど、市民の負担軽減を考えるべきであるが、見解を伺う
- (3) 災害ごみの受入れにおいて、罹災・被災証明書の申請と一括で行うなど、被災者に寄り添った対応ができないか伺う

### 3 ごみ減量日本一の継続を目指して (答弁：市長、教育長)

2050年のカーボンニュートラル実現を目指し、令和5年度の施政方針では「人」と「環境」の持続性を柱にまちづくりを進めている。ごみ減量日本一は、まさに市民の意識と努力の成果であり、市民力の偉大さを誇りに思う。当市ではさらに「掛川市おむつりサイクル・ごみ減量推進会議」を設置するなどして、焼却と埋め立てに頼らない、環境の持続性と豊かな暮らしの実現とともに、ごみ減量日本一の継続に意欲的に取り組んでいることから、以下について伺う。

- (1) 令和7年に一部着手を目標に取り組んでいるおむつりサイクル・ごみ減量推進会議の進捗を伺う

- (2) 掛川区域と大東・大須賀区域のごみの出し方のルールが違うことへの見解を伺う
- (3) 市内統一の資源回収の方法について見解を伺う
- (4) 月一回の資源回収だけでなく、毎日資源回収が行えるリサイクルセンターを常設すべきと考えるが、見解を伺う
- (5) 再度、キエーロの推進を行うべきと考えるが、見解を伺う
- (6) 給食センターやこども園、福祉施設など、多くの生ごみ処理が必要な施設への生ごみ処理機の導入推進や、堆肥や有機肥料として有効活用することへの支援を検討すべきと考えるが、見解を伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	14	氏名	鈴木久裕	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括 )
------	----	----	------	---

### 1 民間企業の文化芸術支援活動を活かしたまちづくりについて (答弁：市長)

市内では、これまでも民間企業による文化芸術支援活動が積極的に行われてきた。そのひとつである資生堂アートハウスは、近現代のすぐれた美術品を収集・保存するとともに、美術品展覧会を通じて一般公開する文化施設として活動してきた。当市のまちづくりにとって、文化面、観光面などで多大な貢献をいただいております。今後も引き続き活発な活動を期待したいところである。

しかしながら、現在行われている「第二次 工藝を我らに 第四回展」が10月29日に終了したあとの展覧会予定は公表されておらず、市民の中には資生堂アートハウスの今後について心配する声が多からずある。

そこで、市としての現状認識と今後の方策などについて伺う。

- (1) 市長は、当市における資生堂アートハウスの存在とこれまでの活動を、どのように評価しているのか、見解を伺う
- (2) 資生堂アートハウスの現状と今後の動向について、認識と問題意識を伺う
- (3) 今後とも従来と同様に、活発で質の高い展覧会などを継続的に開催していただけるよう、市長として資生堂に要請していくべきではないか、見解と方針を伺う

### 2 掛川城三の丸に関するアンケート調査について (答弁：市長)

市は、令和4年10月28日付けで、募集期間を令和4年11月7日までとして、「掛川城公園周辺における民間活力導入に係るアンケート調査(その2)」と称するアンケートを実施した。

アンケート設問の前段として、「掛川城周辺施設の指定管理とは切り離し、三の丸広場への便益施設の建設・特定公園施設としてのイベント広場の整備を実施したい」ことや、「便益施設の設置・管理・運営を行う民間事業者を募集し、施設の収益により、特定公園施設のイベント広場部分の整備・維持管理に還元してもらいたい」といった趣旨が示されていた。

掛川城の周辺整備については、特に天守閣復元に前後して、周辺区域を含め全体を見渡した調査計画が行われ報告書が出されているが、これらと今回の調査内容の整合性については違和感が否めない。

このような調査が進められたことについて経緯や考え方、結果、そして今後の方針などを伺う。

- (1) どのような経緯、考え方でこのような調査を行ったのか伺う
- (2) これまで行われてきた掛川城の周辺整備計画報告書など、特に掛川城周辺地区街なみ環境整備計画策定調査との整合について伺う
- (3) アンケート調査結果はどのようなものであったか伺う
- (4) 調査結果に基づき、実際に事業を進めるつもりなのか。掛川城域や周辺を含めた全体計画との整合なく一部の整備を行えば、かえって歴史文化ゾーン全体の価値を落とすことにならないか、見解を伺う
- (5) このような調査のやり方は、扱いによっては、民間事業者に無駄なことをさせるものであり、ひいては市の信用を落とすことにならないか、見解を伺う

### 3 掛川駅と掛川城周辺施設の維持管理と更新について

(答弁：市長)

掛川駅から掛川城周辺歴史文化ゾーンと、その二つの核を結ぶ掛川駅前通り線、そして「緑の精神回廊」として整備された逆川遊歩道は、1988年の新幹線掛川駅と1994年の掛川城天守閣復元に前後して整備が進められた。これらは、市の玄関口として、また市最大の観光資源として、市外からも多くの人々が訪れ、掛川についての印象を深く形づける場所であり、良好な管理が不可欠な区域である。

現在、掛川城では開門30周年を前に、漆喰や築地塀等の修復工事が行われているところであるが、駅周辺施設も年を経て修繕等が必要な箇所も目に付く。

そこで、これらの維持管理と修繕、整備のあり方について伺う。

- (1) 掛川城天守閣は雑木の大木に囲まれており、周辺から天守閣を眺望しても石垣など城の下部が見えない。復元30周年を前に、雑木を思い切って整理し、城の勇姿が見えるようにすべきではないか、考えを伺う。
- (2) 掛川城を中心とする歴史文化ゾーンの景観向上策としては、電線等の地中化が効果的と思うが、方針と進め方について伺う。
- (3) 駅前通りや「緑の精神回廊」逆川遊歩道には雑草の繁茂が目立つ。除草はどのようなサイクルで行っているのか。こうしたところは一般的な道路等とは別に、美観に配慮して頻繁に行うべきではないか、伺う
- (4) 掛川駅南北のモニュメント、『玄』と『合体』については、漏水やタイルの劣化により、抜本的な修繕が必要な状態と思うが、現状認識と、駅開業40年に向けた修繕の方針を伺う
- (5) 駅前通りについても、駅前土地区画整理事業に伴い1982年に整備されて以来既に40年以上を経て、混植街路樹の巨木化をはじめ、御影石舗装やベンチの傷みなどが目立つ。植栽樹種の変更含め、再整備を考えるべき状態、時期と思うが、見解を伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	16	氏名	窪野愛子	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括 )
------	----	----	------	---

### 1 自然災害から市民の生命・身体・財産を守る対策について (答弁:市長)

大正12年9月に発生し、未曾有の被害をもたらした関東大震災から今年は100年の節目の年となる。地震はその後も数多く発生し、平成7年には阪神淡路大震災、平成23年には東日本大震災が発生した。今なお全国各地で地震が多発し、甚大な被害を被っている。今後30年以内に高い確率で発生が予測されている南海トラフ巨大地震を始め、近年頻発する豪雨災害や災害級の猛暑にも備える対策が急務である。静岡県は今年「わたしの避難計画・がんばる市町」制度と銘打ち、災害に備えて持続化計画を策定した市町を認定する制度を開始したことから、以下を伺う。

- (1) 本市では、家庭の避難計画の作成を市民に啓発してきたが、市民意識調査によると、令和5年7月時点での作成率は約40%である。今後、避難計画の作成率をどのような方策で高めていくのか伺う
- (2) 本市の防災体制強化のために、プロフェッショナル人材を危機管理部門に登用する考えはないか伺う
- (3) 市民の安全と安心をつかさどる危機管理課の業務量過多に対応する、人的配置が必要と思うが、見解を伺う

### 2 掛川市の次代を担う子供達の環境整備について (答弁:市長、教育長)

令和5年4月にこども家庭庁が発足し、同時にこども基本法が施行された。こども家庭庁は、こどもがまんなかの社会を実現するために、こどもの視点に立ち、こどもの利益や権利を守り、こどもと家庭の福祉や健康の向上を支援する政策に、強力なリーダーシップをもって取り組むとのことである。このような状況下において、本市はこども家庭庁の発足をどのように受け止め、今後どのような施策展開を図り、こどもまんなかの社会を実現していくのか、以下を伺う。

- (1) こども家庭庁の発足により、今後新たな課や係を設置する考えはあるのか伺う
- (2) 定員割れが続くさかがわ幼稚園の今後の対応について伺う
- (3) 子育て家庭の孤立した育児からの脱去を図るため、良質な成育環境を整備し、支援の強化を図る必要があると思うが、今後の対応を伺う
- (4) 放課後児童クラブの所管が教育委員会に移管されたが、その効果と課題をどのように捉えているのか伺う

- (5) 安全・安心な放課後の居場所の確保や受入れ施設の拡充を図る、さらなる環境整備の方策を伺う
- (6) 「小1の壁」の打破と待機児童解消に向けた、放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的な実施の推進や、学校施設の一層の活用促進への本市の取組の状況と今後の展開について伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	6	氏名	山田浩司	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括 )
------	---	----	------	---

### 1 広域避難所の設備について (答弁：市長、教育長)

年々気温が上昇し、気象庁のデータによると、今年7月の掛川市の最高気温の平均は、およそ30度となり昨年より2度上昇している。このような中、万が一、災害が起こった場合は、避難所に人が押し寄せる事態が起こり、熱中症という避難所での二次災害も想定される。令和4年には内閣府が「避難所における良好な生活環境の確保に向けた取組指針」を改訂した。また、令和5年、掛川市では掛川市地域防災計画も発表している。避難所で想定される様々なことに対して、できることは手を打つべきと考え、以下を伺う。

- (1) 「避難所における良好な生活環境の確保に向けた取組指針」の改定を受け、広域避難所の生活環境における掛川市の課題と今後の方向性を伺う
- (2) 広域避難所のマンホールトイレを増やしていくべきと考えるが、見解を伺う
- (3) 広域避難所での携帯電話、スマートフォンの充電手段の確保を推進していくべきと考えるが、見解を伺う
- (4) 広域避難所への冷房装置や屋根散水システムなどの設置を進めるべきと考えるが、見解を伺う

### 2 学校が抱える諸課題について (答弁：市長、教育長)

学校が抱える諸課題の1つとして、夏の暑さ対策やICT環境整備が考えられる。現在、学校再編計画が進む中、児童・生徒たちが安心して学び、生活できる環境にしていくために以下を伺う。

- (1) 特別教室の冷房装置設置に関して、整備基準の検討状況及び今後の方向性について伺う
- (2) 教育のICT化に向けた環境整備5か年計画が2年間延長された。50型以上のモニターの全学級設置に向けての進捗と今後の方向性を伺う

### 3 今後の都市公園の在り方について (答弁：市長)

掛川市都市公園条例ができ、18年が過ぎようとしている。旧掛川市・大東町・大須賀町からの都市公園の整備から考えても、47年を過ぎようとしている公園もある。公園内のトイレや遊具は老朽化し、巨木化している樹木も見られる。

また、都市公園の管理について、国は都市緑地法の一部改正により「緑の基本計画」へ都市公園の管理の方針を記載するよう示している。

しかし、掛川市が管理する市内186か所の公園には修繕が滞っている公園も見受けられる。今後、市民が集う、持続可能な都市公園にしていくためにも今後の都市公園の在り方を見直すべきと考え以下を伺う。

- (1) SDGs 未来都市宣言をしている掛川市は、どんな持続可能な都市公園を描いているか今後の方向性を伺う
- (2) 掛川市公園施設長寿命化計画の進捗及び都市公園再整備に対する見解を伺う
- (3) 都市緑地法の一部改正により、緑の基本計画に都市公園管理の方針の記載が示されている。今後の緑の基本計画の改定について見解を伺う
- (4) 都市公園は各自治会に一部管理を委託している。自治会の会員数が減っている地域もある中で、今後どのように管理をしていくのか方向性を伺う
- (5) 掛川市中心部の公園は施設が老朽化しているところが多い。今後、改修して行くにあたり、バリアフリートイレの設置及び、車椅子を利用している人も都市公園を利用できるように、入口からトイレまでの導線を計画的に整備すべきと考えるが、見解を伺う
- (6) 公園の樹木の巨木化に対して、今後どんな対策を行っていくのか伺う

※バリアフリートイレとは、車椅子使用者、発達障がい者など同伴が必要な人、乳幼児連れの人、オストメイト（人工肛門等保有者）のような方々に使われるトイレの総称 出典：国土交通省

## 一般質問通告要旨

議席番号	12	氏名	勝川志保子	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括 )
------	----	----	-------	---

### 1 市民が納得できる部活動改革について (答弁：市長、教育長)

中学校部活動は、長年その位置づけを曖昧にしたまま教員の負担を強いてきた一方で、学校現場でのスポーツ、文化活動を通しての人格の完成という教育基本法の目的達成に大きな役割を果たしてきたことも事実である。本来は、国がしっかりと財源を充て、教員の増員や働き方改革を進めるとともに、諸外国のように子どもたちの文化、スポーツ活動に責任を持つことこそが重要である。国の条件整備が整わない中で、市は、部活動を教育から切り離し、現在のガイドラインとは全く異なるものにつくりかえる改革を短期間に進めようとしている。慎重な議論と市民合意が必要と考え、以下伺う。

- (1) かけがわ地域クラブ設立協議会で出されている地域移行への課題を伺う
- (2) 地域に移行した学校部活動の所管が市長部局の文化・スポーツ振興課に移ったとき、これまでの学校部活動の教育的意義に対しての責任はどかが負うのか伺う
- (3) 教員が自身の希望で指導者となる場合、自己責任でのダブルワーク、長時間労働となり、働き方改革と逆行することにならないか見解を伺う
- (4) 地域移行は活動費や活動場所への送迎など、新たな保護者への負担増を生む可能性が高いが、子育て支援としてどう考えるのか伺う
- (5) 夜間の活動や活動場所への移動などが、子どもの心身の発達や家庭学習に悪影響を及ぼさないか伺う
- (6) 文化、スポーツ活動参加の選択肢を広げるという説明であるが、受け入れる団体や会場の条件、経済的理由、家庭の事情などで子どもの選択肢を逆に狭めてしまうことにならないか、見解を伺う

### 2 市民活動を後押しできる公共の役割について (答弁：市長、教育長)

公共施設の統廃合や民間譲渡、民間への指定管理や委託などが広がっている。民間運営では、採算が重視され、利益を生まない事業や環境整備にはなかなか手は出せない。多様な市民ニーズに応え、利活用しやすい公共施設とするため、環境整備と運用の工夫をすることが公共の役割であると考え、以下伺う。

- (1) 公共施設のネット環境整備計画を立て、市民が社会教育施設、図書館、ホール、公民館、児童館などの公共施設を利用して、オンライン視聴やZoom会議なども自由にできるよう整備することが重要だと考えるが、見解を伺う

- (2) 市役所庁舎のロビーや会議室をはじめ、公共の場の貸し出しルールを明確化し、市民にもわかりやすく広報することで、さらなる利活用が図れないか伺う
- (3) 市や教育委員会の後援名義許可は、催しや活動の内容に基づく判断を迅速に行ない、市民の多様な活動を後押しすべきと考えるが、見解を伺う
- (4) 市立図書館は、図書館法に則って、視聴覚資料の活用、会議室や生涯学習ホールの市民利活用なども含め、文化の拠点としての機能発揮が求められていると考えるが、見解を伺う
- (5) 官民協働による魅力的な施設づくりを目指すたまり～なは、幅広い利活用のため、市が全庁的な意見を取りまとめた計画を示した上で運営を委託することが重要だと考えるが、見解を伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	8	氏名	石川紀子	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括 )
------	---	----	------	---

### 1 農業用ため池の維持管理について

(答弁：市長)

農業用ため池は、農業用水だけでなく防火用水としても利用され、豪雨時には洪水に対して調整機能も果たしている。昨今の激甚化する災害から、ため池の維持管理に関して対策を講じなければと考え、以下を伺う。

- (1) 農業用ため池の農業用水としての活用が減少している中、日常点検の在り方を伺う
- (2) 地震や豪雨などによる災害が起こった場合の緊急点検の在り方を伺う
- (3) ため池管理者の高齢化にともない今後の担い手について検討しているとのことであるが、その進捗状況について伺う
- (4) 災害時に管理人がため池の現場に出向かなくても、状況を把握できるシステムを導入すべきと考えるが、見解を伺う

### 2 地域の福祉を支える民生委員・児童委員、主任児童委員について

(答弁：市長)

民生委員・児童委員、主任児童委員は、地域福祉を推進する担い手として、高齢者や障がい者、災害時要援護者の見守りをしたり、児童生徒や家庭など、住民の困りごとなどの相談を受けたりと、ボランティア精神で活動している。

委員は、都道府県知事の推薦を受けて厚生労働大臣より委嘱され、3年間を任期とし、福祉事務所や関係行政機関と協力して様々な問題をいち早く支援につなげている。そこで、民生委員・児童委員、主任児童委員それぞれが担う役割と、現在の社会状況に沿う在り方について伺う。

- (1) ボランティア精神で活動している民生委員・児童委員、主任児童委員をどのように捉えているのか伺う
- (2) 担い手不足の課題解決の方策について伺う
- (3) 民生委員・児童委員個々の活動を支援するペアサポーターと、地区民生委員児童委員協議会の活動を補佐するエリアサポーターの活動及び、今後の展開について伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	9	氏名	嶺岡慎悟	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括 )
------	---	----	------	---

### 1 公共施設の今後の在り方について (答弁：市長)

本年度のきとうこども園開園によって南部地域のこども園化が完了し、子育て環境の充実が図られた一方、5つの幼稚園の跡地活用の方向性が定まっておらず、地域としても大きな課題となっている。公共施設マネジメントの推進においては、今回しっかりとした方向性を示せるかどうか将来を大きく左右すると言っても過言ではない。そこで、公共施設の今後の在り方について以下の点を伺う。

- (1) 幼稚園跡地活用の現状と今後の方向性を伺う
- (2) 公共施設跡地の一部を民間企業に貸借し、残りを公園などにして貸料によって維持費を賄っていくスキームを考えられないか、見解を伺う
- (3) 廃止が予定されている南部の水泳場の新設について考えを伺う
- (4) 公共施設及びインフラにおける包括施設管理業務委託の導入について、見解を伺う
- (5) 物価高騰による公共施設の利用料の条例改正は必要ないか伺う
- (6) 公共施設の今後の方向性について所管課任せでなく、全庁横断的に資産経営課が全体をコーディネートするべきと考えるが、見解を伺う

### 2 農業政策について (答弁：市長)

農業従事者の高齢化や担い手不足が深刻化する中、昨今の物価高騰が追い打ちをかけ掛川市の農業は危機的状況である。特に稲作は担う面積も大きく、耕作放棄が進めば、まちづくりの観点からも市民生活への影響が大きい。そこで、以下の点を伺う。

- (1) 飼料用米の助成金減による稲作農業者の経営難への対策を伺う
- (2) 地元産のお米を消費してもらえよう、市民にさらにPRする施策が考えられないか伺う
- (3) 基盤整備を推進するための担い手不足に対する支援策について伺う
- (4) 地域計画(旧「人・農地プラン」)策定に向けた課題と今後の方向性を伺う
- (5) 耕作放棄地問題だけでなく、空き家や相続などを含めたまちづくりの諸課題を総合的に取り組む庁内対策チームが必要と考えるが、見解を伺う

## 一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	13	氏名	寺 田 幸 弘	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 <input type="checkbox"/> ・一括 )
------	----	----	---------	--

### 1 市民生活の充実を図るための施策について (答弁：市長)

掛川市では、昨年度から総務部に資産経営課が新たに創設され、管財係、地籍調査係、公共施設マネジメント推進係に分かれ業務を行っている。財政負担の在り方や、市民生活の充実を図っていく上で、資産経営課の手腕が重要な役割を果たすと考えられるため、以下について伺う。

- (1) 資産経営課が担う業務と役割について伺う
- (2) 市が所有する財産の大区分で、行政財産と普通財産の定義を伺う
- (3) 現在、農林課の所管である山崎・大渕・千浜の3つの農村環境改善センターは、利用目的から見て所管を変更すべきと考えるが、見解を伺う
- (4) 行政財産から普通財産となった土地や建物の管理状況について伺う
- (5) 市民活動の活性化のため、普通財産である土地や建物の改修整備を行っていく考えはないか伺う
- (6) 過去において、土地や建物が行政財産から普通財産となり、再び所管を変更し、行政財産となった事例について伺う
- (7) 指定管理者制度について、これまでの評価と今後の方針について伺う
- (8) 行政財産であるサンサンファームは、後継企業が決まらなかった場合、指定管理者制度を採用していく考えはあるか伺う

### 2 交通弱者と買い物弱者対策について (答弁：市長)

今年度の市民意識調査では、交通弱者対策は満足度(33.1%)が低く、優先度(61.7%)が高い施策としてあげられている。これは買い物弱者対策にもつながると考えられるが、現状の課題や支援の在り方について伺う。

- (1) 現状の交通弱者対策と今後の施策について見解を伺う
- (2) 大東区域、大須賀区域を周回する自主運行バスの将来性を伺う
- (3) 買い物弱者の現状把握と移動販売の積極的導入について見解を伺う

### 3 安全安心な市民生活を送るための施策について (答弁：市長)

市民が安全安心な日常生活を送るため、市道の維持管理や整備は怠ってはいけない施策である。また、市内各所に掲げられている行政施設の案内板の管理も大

切であると考え、以下について伺う。

- (1) 市道の雑草・樹木の早期除草・伐採は、交通事故防止や自然災害の被害縮小にもつながるため、実施すべきと述べてきたが、なぜ、実行されないのか見解を伺う
- (2) 市役所などへの案内板などが、何年にもわたり汚れや判読不能の状態にある箇所が見られる。市としてこのままで良いのか見解を伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	10	氏名	富田まゆみ	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括 )
------	----	----	-------	---

### 1 イベントを最大限に活用した市の活性化策について (答弁：市長)

7月15日から17日まで音楽イベントap bank fes' 23が掛川市で行われ、延べ9万人が来場した。このイベントは単なる音楽イベントではなく、フードエリアやワークショップなども多く、来場者が10時から21時までの時間を音楽と共に楽しめる仕掛けがたくさんあった。また、環境配慮型のイベントとしても定着しており、3Rの取組を積極的に行い、参加者への意識啓発も盛んに行われている。

ap bank fesを活用したシティプロモーションは、またとないチャンスだったと思うが、掛川市として今回のイベントで行ったのは、駅前でのおもてなし呈茶と、うちわ・スティック茶・サンバイザーの配布、観光周遊のためのパンフレット配布に留まった。

そこで、ap bank fesをはじめとした近隣でのイベントにおける掛川市の魅力発信やコラボ事業、また、他のイベントを活用した活性化策について伺う。

- (1) ap bank fesの開催をチャンスと位置づけ、フェスの告知・宣伝広告に開催地である掛川市の情報を掲載したり、ブース出展によるシティプロモーションを行ったりすることが非常に有効だったと考えるが、見解を伺う
- (2) 今後もap bank fes開催があった場合、どのようなコラボ事業が考えられるか、また、こうした近隣でのイベントを活用した活性化策をどのように考えているのか伺う
- (3) ap bank fesは環境への造詣が深いイベントである。この点で掛川市と意を同じくすることから、ap bankとごみ減量日本一をPRしたマイバッグを作成し会場で使ってもらうなど、ごみ減量につながる協働事業を実施できる可能性があると考えますが、見解を伺う

### 2 働き方改革を支える健康経営について (答弁：市長)

昨今、民間事業者のみならず自治体においても、職員の健康保持・増進の取組が働く者の活力向上や生産性向上など、組織の活性化をもたらし、結果的に業績向上や組織としての価値向上につながる「健康経営」という考え方に関心が高まっている。

現在、本市においては職員の働き方改革を推進しているが、この改革を支える環境として「健康」に着目した取組は大変重要であると考え、以下の点について伺う。

- (1) 健康経営を進めるにあたり、掛川市特定事業主行動計画の着実な実行が有効と考える。本計画の進捗状況、現在把握している課題、その課題から今後どのような取組が求められているか伺う
- (2) 市職員全ての年代における生活習慣病対策や心身の疾病への早期発見に取り組むことが重要であることに加えて、定年延長を見据えた61歳以上職員の健康保持増進も重要と考える。これらへの見解と取組について伺う
- (3) 週に20時間未満勤務の会計年度任用職員の健康保持増進についても、正規職員と同様に健診や相談などができることは、良好な市民サービスにつながる大切なことと考えるが、見解を伺う
- (4) 健康経営の観点からは、長時間勤務の是正も大きな効果を生むと考えるが、そのための対応について伺う
- (5) 安全で快適な職場環境の確保として、整理、整頓、清掃、清潔、しつめの5Sの推進も重要である。加えて適正な室温の確保や、職場で固定の席を持たずにフリーの場所で働くというワークスタイルも5Sを後押しすると考えられる。また、時間外勤務の場所をまとめることは、経常経費の削減効果も期待できる。これらに関する見解と今後の取組について伺う
- (6) 職員一人ひとりが安心して働けるよう、職員の名札を苗字だけに変更する考えはないか伺う

### 3 市民の安全安心につながる防災機器の管理について (答弁：市長、教育長)

自然災害が多発している昨今、災害時には正確な情報の送受信が大きな役割を担う。防災行政無線は、災害発生時に災害対策本部と避難所、地域を結ぶ重要な役割を持っており、掛川市では支部員が広域避難所に配置され、情報伝達を行う。

また、迅速な対応により命を救えるAED（自動体外式除細動器）は、市内の小中高等学校、図書館をはじめとした公共施設やスーパー、民間企業などに設置されている。

防災拠点となっている学校施設などにおけるこれら機器の管理について、以下の点を伺う。

- (1) 休日夜間の体育館やグラウンドなど、学校が閉まっている時間帯でも市民の利用がある小中学校や、公共の運動施設へのAEDの設置場所について、安全に迅速に使用できるようにすることが大切と考えるが、見解を伺う
- (2) 現在、消防署やNPO法人が指導している実践に役立つAEDの使い方などは、さらなる市民への啓発活動が有効と考えるが、見解を伺う
- (3) 広域避難所となっている小中学校の防災行政無線は、ほとんどが職員室に設置されているが、運用面における制限があったり、周波数の混乱などにより情報伝達が滞ることも予想される。情報活動の重要な拠点としての在り方を伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	5	氏名	大井 正	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括 )
------	---	----	------	---

- 1 教育、子育て、福祉政策を充実させて人口減少を食い止める方策について  
(答弁：市長、教育長)

この分野における施策の重点は、子どもやお年寄り、障がいを持つ人などが受けている教育や介護の質、量を充実させ、満足してもらうとともに、保護者や家族にも安心してもらえるサービスを提供することにある。同時にその体験や見聞が心に残り、進学などで一旦掛川を離れても、住むなら掛川、子育てするなら掛川、老後は掛川という思いを抱き、若者のUターンや、他の市町から赴任者の移住を促す視点が重要と考え、以下について伺う。

- (1) 居住地に幼稚園や保育園、小中学校などがあってこそ、地域の伝統が継承され、地域の持続や世代の継承が図られると考えるが、見解を伺う
- (2) 現在進められている学校再編計画は、地域の継続や世代継承の観点での検討がなされているのか伺う
- (3) 高校生の意識調査によれば、将来、掛川市に住もうと考えている人は20%以下とのことである。居住希望者増加のための施策と目標について伺う
- (4) 高齢者のみの世帯が増え、地域のコミュニケーションも希薄になりつつある中、高齢者の知恵や経験を次世代や子どもたちに継承するための場が必要と考える。それは高齢者の生きがいや見守りにもつながると考えるが、見解を伺う

- 2 掛川市が安全・安心・快適なまちとして「選ばれるまち」となるための環境及び都市基盤の整備について  
(答弁：市長)

近年の異常気象による災害に対し、河川や崩落危険地域の対策は喫緊の課題である。また、道路や上下水道の整備は、安全・安心な市民生活の必要条件であるとともに、各種産業の持続にとっても必要条件である。こうしたインフラが整備されると同時に、豊かな自然環境が整備されれば、市民は安心して掛川に住み続け、市外からの流入・定着人口の増加も期待できると考え、以下について伺う。

- (1) 道路や河川の整備は、その管理責任が国や県にあるものでも、積極的な要請や提案をすべきと考えるが、見解を伺う
- (2) 開発行為などに対し、下流水路の能力確保、生活道路の利便性を確保できる計画になるよう指導すべきと考えるが、どのように指導しているか伺う
- (3) ならこの里の売却方針は、将来的に、自然環境の維持や地域産業との連携、地域での雇用確保、Uターン者の増加などの障害にならないか不安を感じる。

今後、どのような対応がなされるのか伺う

3 人口減少を食い止め、流入者を増やすシティプロモーションや行財政の在り方について  
(答弁：市長)

施政方針でも述べられているとおり、人口減少は危機的状況であり、大胆な予算措置を取ってでも人口減少を食い止めなければならない。また、「暮らしやすさの発信」は重要である。名所や名物の紹介、イベントの案内といった「観光客誘致的」な発信でなく、地に足を付けた日常生活を送るうえでの魅力を継続的に発信していくべきと考える。この発信は、流入者を呼び込むばかりでなく、市民に共有されることにより、郷土愛が醸成されて転出を抑制し、Uターンの増加につながると考える。こうした認識のもと以下について伺う。

- (1) 総合計画に示された人口維持の目標達成のための予算措置が見えない。従来の予算と比較し、どの費目がいくら増額されたか伺う
- (2) シティプロモーションの検討にあたって、市民が我が市を知り、誇りを持つという視点はあるか伺う
- (3) 現在「暮らしやすさ」の内容として、どのようなことを考えているか伺う
- (4) 市民や子どもたちが実感している暮らしやすさ、暮らしにくさを反映したシティプロモーションが大切と考える。このような市民感覚をどのようにくみ上げるか伺う

## 一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	4	氏名	安 田 彰	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 <input type="checkbox"/> 一括 )
------	---	----	-------	---

### 1 ごみ収集の現状と今後について

(答弁：市長)

本年4月の区長会連合会で市長は、掛川市が2年連続ごみ減量日本一になった報告の際に「生活系のごみの減は、自治区役員やクリーン推進員による分別指導をはじめ、長年、市民協働によるごみ減量の取組を進めてきたことで、市民の皆様が高いごみ減量意識を持ち続けていることが最も大きな要因である」と述べている。

また本年3月に改定された、第3期掛川市地球温暖化対策実行計画では、「今後も『ごみ減量日本一』という掛川市民のシビックプライドを生かし、さらなるごみの減量・資源化を推進していきます」とうたっている。

しかし、市民目線で考えたときに、ごみ収集の現状と今後について、克服していかなければならない課題があると考え、以下の点について伺う。

- (1) ごみ減量日本一が掛川市民のシビックプライドであるという根拠を伺う
- (2) ごみ収集の現場で自治区役員やクリーン推進員が行っている具体的な活動について、どのように捉えているか伺う
- (3) 地区により集積所に出されるごみの量や住民のマナーも異なるため、クリーン推進員の中には負担が大きく、不満を感じている方もいる。この不満解消を図る必要があると考えるが、見解を伺う
- (4) アパートが多い地区や外国人が多い地区など、住民の構成などによって分別が徹底できない地区もある。この課題について地域任せにせず、行政が積極的に指導すべきと考えるが、見解を伺う
- (5) 現在、使用済み紙おむつのリサイクルが検討されている。それに伴い、家庭から出る紙おむつの回収方法によっては、クリーン推進員の負担が大きくなると懸念する声がある。回収方法について、今の段階での見解を伺う
- (6) 掛川区域と大東・大須賀区域で分別マニュアルが分かれている。合併から間もなく20年となり、マニュアルの統一が必要だと考えるが、見解を伺う
- (7) ごみ減量日本一を続けていくことについての今後の展開を伺う